

令和4年9月13日
水管理・国土保全局

令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰の受賞者が決定！ ～国土交通省関係では、1個人及び12団体が受賞～

令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰[※]の受賞者（12個人、36団体）を内閣府において決定しました。このうち国土交通省関係は、豪雨災害に対する水防活動、土砂災害防止活動、緊急災害対策活動（TEC-FORCEによる被災自治体支援活動）に著しい功績があったとして、1個人及び12団体が表彰されることになりました。

なお、表彰式の日程等については、内閣府から別途発表があります。

※ 防災功労者内閣総理大臣表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和57年5月11日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として行われるものです。

国土交通省関係の受賞者（1個人及び12団体）

（1）水防活動関係・・・9団体

[災害現場での防災活動]

（令和3年7月1日からの大雨）

- ・ ^{ふじし}富士市水防団 <静岡県>
- ・ ^{いずもし}出雲市消防団 <島根県>
- ・ ^{ちよう}さつま町消防団 <鹿児島県>

（令和3年8月の大雨）

- ・ ^{すわし}諏訪市消防団 <長野県>
- ・ ^{げろし}下呂市消防団 <岐阜県>
- ・ ^{くるめし}久留米市消防団 <福岡県>
- ・ ^{たけおし}武雄市消防団 <佐賀県>
- ・ ^{うれしのし}嬉野市消防団 <佐賀県>
- ・ ^{おおまちちよう}大町町消防団 <佐賀県>

(2) 土砂災害防止活動関係・・・1個人及び1団体

[防災体制の整備]

- ・国立大学法人静岡大学 名誉教授

つちや さとし
土屋 智 <静岡県>

[災害現場での防災活動]

(令和3年来海沢地すべり災害)

- ・来海沢区 <新潟県>

(3) 緊急災害対策活動関係(TEC-FORCEによる被災自治体支援活動)・・・2団体

[災害現場での防災活動]

(令和3年7月1日からの大雨)

- ・国土交通省 緊急災害対策派遣隊
- ・国立研究開発法人土木研究所 緊急災害対策派遣隊

【問い合わせ先】国土交通省 水管理・国土保全局 代表 03-5253-8111

- (1) 水防活動関係
河川環境課 水防企画室 金子、大瀧 (内線 35452, 35455)
直通 03-5253-8460, Fax03-5253-1603
- (2) 土砂災害防止活動関係
砂防部 砂防計画課 須藤、市村 (内線 36122, 36165)
直通 03-5253-8466, Fax03-5253-1610
- (3) 緊急災害対策活動関係 (TEC-FORCE 関係)
防災課 災害対策室 小林、松葉 (内線 35822, 35824)
直通 03-5253-8461, Fax03-5253-1608

功 績 概 要

(1) 水防活動関係

団体〔災害現場での防災活動〕

(令和3年7月1日からの大雨)

名 称	富士市水防団
所在地	静岡県富士市
代表者	団長 長橋 弘孝
功績の概要	富士市水防団は、令和3年7月1日からの大雨に際し、11分団 延べ298名が警戒巡視、水害対応にあたった。 特に、富士市東部域にある、富士川水系江尾江川・万騎沢、前川が氾濫したため、同水防団は、消防団や地域の自主防災会と連携し、溢水箇所への土のう積み、冠水道路周辺での通行誘導、浸水避難困難者の避難補助等を行い、水害対応において中心的な活躍をするなど、地域の被害軽減に貢献した。

名 称	出雲市消防団
所在地	島根県出雲市
代表者	団長 河原 基
功績の概要	出雲市消防団は、令和3年7月1日からの大雨に際し、令和3年7月7日から7月13日にかけて、延べ1,464名が出動し、積み土のう工、河川等の警戒巡視、排水活動、住民の避難誘導、ゴムボートによる住民6名の救助を行い、人命の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	さつま町消防団
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町
代表者	団長 丸尾 省吾
功績の概要	さつま町消防団は、令和3年7月1日からの大雨に際し、延べ332名が出動し、大雨特別警報が発令される状況のもと、河川流域の住民の避難誘導に奔走した。また、河川増水により冠水した道路に取り残されて浸水した車両からの救出活動や、床上浸水した住宅から消防署と連携し、ゴムボートによる住民1名の救助を行った。平素の水防意識の高揚と相まって、人的被害の軽減に多大な貢献をしたその功績は、特に顕著であると認められる。

(令和3年8月の大雨)

名 称	諏訪市消防団
所在地	長野県諏訪市
代表者	団長 小池 敏彦
功績の概要	諏訪市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、2日間にわたり、延べ529名が出動した。大雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視、市内各地で内水氾濫による冠水した道路や、土砂災害による危険な状況の中、水防活動を行うとともに、住民の避難誘導や人命救助活動を行い、1人として人的被害を出さず、緊急時の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。

名 称	下呂市消防団
所在地	岐阜県下呂市
代表者	団長 土屋 竹浩
功績の概要	<p>下呂市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、5日間にわたり、延べ1,280名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり河川巡視を行い、河川等の氾濫を防ぐために土のう作り、土のう積み、またポンプによる排水活動により浸水等による被害を未然に防いだ。また、この他、住民の避難誘導を行い、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

名 称	久留米市消防団
所在地	福岡県久留米市
代表者	団長 古賀 誠一
功績の概要	<p>久留米市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、8月12日から4日間にわたり延べ1,650名の体制で、避難所開設に伴う広報活動を速やかに実施するとともに、水害発生箇所において土のう積みにより被害を軽減させた。</p> <p>さらには、浸水箇所等において多くの住民が孤立する等の事案が発生したため、ボートによる救出活動及び避難所への搬送を実施した。</p>

名 称	武雄市消防団
所在地	佐賀県武雄市
代表者	団長 樋渡 弘文
功績の概要	<p>武雄市消防団は、令和3年8月からの大雨の際、6日間にわたり、延べ1,641名が出動し、豪雨が降り続く状況の下、昼夜にわたり舟艇等による救助活動、安否確認活動、食料の配布活動・住民の避難誘導を行い、水害等による被害を最小限に防いだ。</p> <p>この他、河川警戒巡視・道路パトロールによる通行止め対応（迂回指示）・土砂災害現場での応急対応（シート・土のう積み）等の水防活動を行い、平素の水防意識の高揚と相まって、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

名 称	嬉野市消防団
所在地	佐賀県嬉野市
代表者	団長 光武 賢次郎
功績の概要	<p>嬉野市消防団は、令和3年8月の大雨に際し、5日間にわたり、延べ645名が出動し、昼夜にわたり住民の避難広報及び誘導、河川巡視等を行った。また浸水地域において、ゴムボートによる住民19名の救助及び搬送を行い、1人として人的被害を出すことなく、平素からの水防意識の高揚と訓練の成果により、被害の軽減に多大な貢献をした。</p>

名 称	大町町消防団
所在地	佐賀県杵島郡大町町
代表者	団長 山下 賢司郎
功績の概要	<p>大町町消防団は、令和3年8月の大雨に際し、12日間にわたり、延べ200名が出動し、町南部を中心とした大規模な浸水害に加えて町内3ヶ所では地割れや崩落の兆候などが発生し、一昨年引き続き災害に見舞われる状況の中、昼夜にわたり町内（河川）巡視を行い、一昨年からの経験から各部に配置した救命ボートによる救助活動を行った。町民の避難誘導等の水防活動を行い、1人として人的被害を出さず、平素の水防意識の高揚と相まって、早期の救助活動と被害の軽減に貢献をした。</p>

(2) 土砂災害防止活動関係

個人〔防災体制の整備〕

氏名	つちや さとし 土屋 智
職業	国立大学法人静岡大学 名誉教授
功績の概要	<p>氏は静岡県における警戒避難体制の整備、火山砂防計画の策定など、土砂災害に関する各種委員会で委員長等を歴任し、県のホームドクターとして、卓越した技術力と経験に基づき、委員会運営等を通して、県の砂防行政において、多大な功績をあげてきた。</p> <p>特に、急峻な地すべり斜面直下に東海道本線や東名高速道路など重要な交通網がひしめく由比地すべりは、対策の緊急性が高い一方、地形や地質が複雑で高度な技術を要することから学識者の意見を聴取するため委員会が設置され、氏は平成16年度以降、委員会を通して数々の助言をされ、それらは現在の対策の礎となっている。</p> <p>また、静岡県に限らず、砂防学会及び地すべり学会において要職を歴任しており、特に地すべり学会では平成26年、27年度に会長に就任し、学会の発展と科学技術の振興及び安全な地域社会の実現に向け尽力するなど、広く砂防・地すべり分野において多大な功績をあげている。</p>

団体〔災害現場での防災活動〕

(令和3年来海沢地すべり災害)

名称	来海沢区
所在地	新潟県糸魚川市
代表者	区長 神喰 重信
功績の概要	<p>来海沢区の区長及び役員9名は、令和3年3月4日未明、市から地すべり発生の電話連絡により参集し、午前3時に西側地区の避難勧告発令を受け、地すべりに伴う地区全域停電による暗闇の中、寝静まっている地区住民を戸別に回って、避難を呼びかけると共に、高齢者を自家用車で地区内の一次避難先へ避難誘導した。明け方には土砂が人家に到達したが、この行動により、土砂到達直前までに全員の避難が完了した。</p> <p>当該地区は過去の地すべり災害等の経験から毎年、市の防災訓練に合わせて、「声を掛け合って避難する訓練」を実施しており、どの役員が誰を自家用車で迎えに行くかを予め決めていたため、よりスムーズな避難に繋がった。</p> <p>このほか、一部住民の避難生活が続く中、「来海沢区かわら版」（地すべりの調査、応急対策工事の進捗状況などの情報）を毎月2回発行し、避難者や地区内で耕作している人などの関係者へ、手渡しや郵送配布を行っている。</p> <p>また、地区内集会所には地区内居住者及び耕作者の入出表を掲示し、避難勧告が発令された場合の、逃げ遅れがないかを一目で把握できるように備え、これにより3月の発災以来、10月末までに計10回の避難（避難勧告発令及び自主避難等）があったが、一人の逃げ遅れも無く、確実に避難が行われている。</p> <p>さらに、地区内では、避難中の空き家や災害中の混乱に乗じた不審者が懸念されていたため、地区入口に防犯カメラを設置し、住民の安心と犯罪予防対策も行っている。</p>

(3) 緊急災害対策活動関係

団体〔災害現場での防災活動〕

(令和3年8月の大雨)

名称	国土交通省緊急災害対策派遣隊
所在地	東京都千代田区
代表者	隊長 高須 博幸
功績の概要	<p>国土交通省緊急災害対策派遣隊は、令和3年7月1日からの大雨による災害に際し、令和3年6月30日から8月31日の約2ヶ月にわたり、全国からのべ1,283名が出動し、中部、中国地方での地方公共団体の被災状況調査や、九州地方での排水ポンプ車による浸水排除などを実施し、被害の全容把握による被災地の復旧・復興に向けて多大なる貢献をした。</p> <p>また、大規模な土石流が発生した静岡県熱海市では、土砂災害専門家による助言や、被災箇所上流への監視カメラの設置など、警察、消防、自衛隊による救助活動に貢献した。</p>

名称	国立研究開発法人 土木研究所緊急災害対策派遣隊
所在地	茨城県つくば市
代表者	上席研究員 澤田 守
功績の概要	<p>国立研究開発法人 土木研究所緊急災害対策派遣隊は、令和3年7月1日からの大雨に際し、発災直後から情報収集や分析等を実施するとともに7月6日から7月15日にかけてのべ4名の専門家を派遣し、橋梁被災箇所に係る高度な技術指導を実施し、被災地の早期復旧に大きく貢献した。</p>